

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	6 月	27 日	記入者	大谷 巳弥子
調査者名	大谷	垣内	久門	鶴田	

文化財名	どんづる峯				
種類	<input type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input checked="" type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()
指定年月日	1951年(昭和26)11月1日				
所在地	香芝市穴虫				
所有者 管理者	香芝市				
員数	---				
時代区分	---				
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)	
案内板の状況	見やすい説明板が2種類設置されている。				
公開	自由				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input checked="" type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足 ()				
当面の課題	真新しい地図入りの説明板が設置され、遊歩道も整備されていて、見学者に配慮されている。しかし、「岩肌がもろいため中に立ち入らないように」という注意書きが控えめで、自由に立ち入れる状況でもある。長い保存のためには、展望スポット以外への立ち入りをもっと制限するようにした方がいいのかもしれないと感じる。				
今後の課題	岩の間の樹木の成長により、真っ白な岩肌の広がり狭まってきているように感じるが、自然のままの姿で保存するためには仕方がないのか。				
その他 (由緒など)	千数百万年前の二上山の火山活動に始まる地殻変動や浸食により出来た景観で、遠望すると鶴が屯(たむろ)しているような奇観のためこの名称がついた。 加工しやすい凝灰岩のため、古くは古墳の石棺などに利用された。 第二次世界大戦末期には、巨大な防空壕が掘られ、現在その一部が京都大学防災研究所附属地震予知研究センター-屯鶴峯観測所として再利用されている。				
コメント	この凝灰岩は特に砂気が多くもろいため、古墳時代にもランクの低い被葬者の石棺にししか使われなかったとのこと。現在の景観を長い将来まで保存出来るよう工夫していただきたいと思う。 金剛葛城山系を縦走するダイヤモンドトレイルの起点として登山客の姿を多く見かけますが、地下防空壕跡を見学可能なように整備してどんづる峯の景観とセットにし、交通手段を確保すれば、ここだけで一大観光スポットになりそうな気がする。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2020年	6月	27日	記入者	大谷 巳弥子	
調査者名	大谷	垣内	久門	鶴田		

文化財名	どんづる峯
------	-------

古い説明板	新しい案内説明板
-------	----------



遠景

近景



近接する住宅地

遊歩道

